2.3　中部森林管理局とのヒアリングの実施

収穫予想表の出自や調製経緯等について確認するため、中部森林管理局計画課にヒアリングを実施した。ヒアリングは下記の日時で開催した。

1. 開催日時　2022 年　8 月 23 日（火）　14:30～16:30
2. 開催場所　Web による開催

ヒアリング結果の概要を以下に示す。

※現行収穫予想表について

- 旧名古屋営林局と旧長野営林局が合併して現在の中部森林管理局管内が構成されていることから、調整の経緯が異なる。
- 中部森林管理局の収穫予想表では地位の区別がないことの理由は不明だが、当初からそのようになっている。中部局では、施業群で区分しており、施業群と地位区分がある程度紐付けられていると考えられる。
- 収穫予想表 014 は 15 齢級以降の値のみで、幹材積は減少傾向。また、連年成長量は-0.4 と負の値になっている。15 齢級以降なのは、単木伐採（点状）による複層林施業の複層伐（初回伐採）の伐期齢が 15 齢級であるためと思われる。下層木の育成（光環境の確保）のため、上層木を少しずつ伐採していくという考え方により､幹材積を減少させていると考えられる。しかし、森林調査簿の材積計算では、予想表の成長率を直接使用しているため、マイナス値を適用するのは問題がある。適用しているのは木曽谷と中部山岳の計画区のみであり、今回の成長モデル業務では除外するのが適当と考える。

※収穫予想表の調製経緯について

- 収穫予想表が作られるようになった昭和 40 年代は高齢級のサンプルがなく、当時の収穫予想表の林齢は 15 から 16 齢級。その後、長伐期施業が登場したが、当時の旧長野営林局では高齢級林分のサンプルが少ないため、成長曲線をフリーハンドのような形で調整を行ったと考えられる。旧名古屋営林局の収穫予想表はこれを参考に、平成 27 年度に調製を行った。また、平成 11 年に水源涵養機能の観点で施業群という考え方が生まれた。それまでは生産群という名称で管理しており、こうした生産群から施業群への移行の際にも調整が行われたと考えられる。
- 各地域内の施業群のデータ件数が少ないもの、あるいはないものがある。地域と施業群に該当する収穫予想表の指標はあるが、見直しや調製のなかで意図的あるいはミスによって別の施業群を適用している場合がある。
- 改定は平成 27 年が最後。

※その他

- 地域区分については、愛知県（尾張西三河、尾張東三河）について検討する必要がある。